

編集後記



1999年に米国バークレー国立研究所から報告された118番元素合成に関する論文 (Phys. Rev. Lett. 83, 1104 (1999).) が取り下げられることになった。詳しい事情はわからないが、再度解析したところ、発表したようなデータは存在しなかったということである。「何かを発見する」ということについていろいろな観点から考えさせられる出来事であった。日本でも「ニッポニウム」という新元素発見の報告が20世紀初め小川正孝によりなされた (詳細は吉原賢二著「小川正孝の栄光と挫折」化学誌研究 24, 295 (1998), 「科学に魅せられた日本人」岩波ジュニア新書を参照されたい)。このときはデータの判断を誤ったため、結局は新元素として受け入れられなかった。しかしデータを吟味してみると、当時の別の新元素であったことが判明したそうである。90年余り経過してから明らかにされた事実であるが、データはその間ずっと生きていたのである。

4月から新たに4研究グループが発足し、各グループの研究内容、抱負などを伺った。成果を期待したい。(Y. N.)